

名古屋市要介護度等改善事例公表事業

改善・向上したこと

ご利用者が尿漏れなどによる不快さを感じることなく、好きなタイミングでトイレに行けるようになりました。

事業所	サービス種別	介護老人福祉施設
	事業所名	なごやかハウス岳見
	所在地	名古屋市瑞穂区岳見町3丁目4番地の1
利用者	65歳未満 ・ 65～70歳 ・ 70歳代 ・ 80歳代 ・ 90歳～	

取り組み

課題（取り組み前の時点）	<ul style="list-style-type: none"> ・対象ご利用者が認知症を有し、尿意、便意の意思表示が曖昧であるため、ご自身の望むタイミングでのトイレ介助を行うことができていなかった。 ・定時以外でトイレ介助は行っていなかった。定時に希望しなかった場合も、そのまま次までトイレ介助は行わず、声かけも行えていなかった。 ・職員によって、ご利用者をトイレ介助する時間（便器に座る時間）にばらつきがあった。 ・トイレ介助がご利用者に合わせた時間でなく、職員の業務に合わせていた。 		
本人の意向	トイレに行きたい時にトイレに行けるようになりたい。		
長期目標	自分のタイミングでトイレに行くことができる。	取組期間	R4.4.1～R5.3.31
短期目標	膀胱に排尿がたまるタイミングを把握することができる。	取組期間	R4.4.1～R4.9.30
関連する加算の算定状況	排せつ支援加算－取得していない。		

具体的な取り組み事例（期間、頻度、内容、主に担当した職種など）

- ・ご本人の排せつリズムを把握するため、2時間おきに声かけを行い、トイレ介助を行う。また便器での排尿の有無やパッドの尿量測定も併せて行い、記録に残す。（介護職員）
- ・尿意通知センサー「D-free」を用いて、膀胱内の尿量を測定し、ご本人に適した排泄のタイミングを確認する。（介護職員）
- ・食事摂取量、水分摂取量、体重等を計測し、ご本人に適した食事、水分の検討を行う（看護職員、管理栄養士）
- ・アセスメント実施後、結果をまとめフロア会議等で最終的なトイレ介助のタイミングと、使用パッドの決定をする。（介護職員、看護職員、管理栄養士）

結果（達成したこと、達成時期）

・排泄リズムの確認のため2時間おきのトイレ介助、「D-free」を用いての膀胱内の尿量の測定を行い、ご本人の望まれるタイミングでのトイレ介助を行うことができるようになった。

・排泄アセスメントを行うことによって、尿取りパッドへの排尿量が減少したことで、衣類の汚染が著しく減り、紙パンツではなく布パンツへ変更することが可能となった。ご本人からも「紙パンツは恥ずかしかった。でも迷惑かかるから言い出せなかった」と喜びの声があがった。

・今回の排泄アセスメントを通じて、スタッフより「アセスメントすることで、対象ご利用者と関わりが増え、ご本人のことを知ることに繋がった」「記録に残すことで、どの時間に落ち着かず、トイレに行きやすくなるのか、朝昼夕の尿量は実際どのくらいあるのか知ることができた」など前向きな意見が聞かれるようになった。

※1か月程度でアセスメントは終了したが、対象ご利用者の体調不良等があったため、数度アセスメントを取り直した。明確な結果が出るまで、約8か月程度の期間を要した。

達成後の課題・目標

・今回の対象ご利用者以外でもアセスメントを行い、一律の定時排泄介助ではなく、アセスメントの結果に基づいて、ご利用者一人ひとりに合わせて、声かけ・介助のタイミングを決めていきたい。

・尿取りパッドではなく、トイレで排泄することが当たり前のこととなるように、「行きたい時にトイレに行く」というご利用者の希望実現に少しでも近づけていきたい。

※ 個人情報の取り扱いにご注意ください。